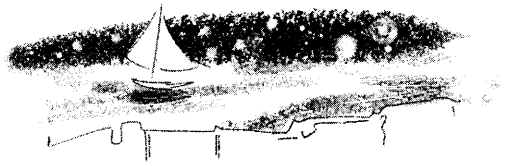
ピアノの脚

宮坂静生

虎鶫ピアノの脚に触れ冷た
祭浴衣船の灯の逃げてゆく
幣(みてぐら)の礁に置かれ祭終ふ
ベッドから久しき電話酢橘の荷
七月の朝はビロード松本は
臈長(たけ)し夏山草田男を話す



諏訪行

鬼百合の鱗芽の沢に出湯の諏訪
托卵の鷸のしづけし蓮巻葉
なまぬるし諏訪湖へ入る夏至の川
荷を揺(ゆす)り上(あ)ぐよ半纏(はんてん)木(ぼく)の花
吹かれをり梅雨の鴛(のすり)の目のそぼろ
チェロケース負ひて山椒魚が好き
維新以後黴の味噌倉塀の街